

特別支援学校 学校評価一覧表② (令和2年度版)

(様式2)

羅 針 盤		グランド デザインの 項目D～I 分掌等	達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	次 年 度 の 課 題
評 価 対 象	評 価 項 目		具体的数値項目	①	②		
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていきますか。	① 保護者の80%以上が、たよりや学校のホームページから学校の様子がよくわかると感じている。	I 教務3係 各学部 各分掌	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 各担当と連携をとり、写真の精選や文章の内容の充実化を図り、学校の様子をわかりやすく伝えるなど、より一層充実した内容を速やかに発信する。 書面によるお知らせだけでなく学校ホームページも利用してより一層の情報発信に努める。これまでの働きかけを継続するとともに活動の様子を映像で発信する。また、保護者の負担にならないようにPTA活動内容の業務軽減と、会議の時間も短時間ですむように資料の事前配付を行う。 生活地図を作成する過程で、保護者および児童生徒の願いを適切に聞き取るとともに、今年度の評価にもとづいて適切な支援内容を決定する。 新しい生活様式に則った交流方法を年度初めより相手校と模索し、交流方法を複数用意し、その時の状況で一番ベストな交流が出来るよう、臨機応援に対応できるようにする。
		② PTA活動を年3回実施し、参加率が70%以上である。	H PTA	B	B	B	
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	③ 保護者の90%以上が「個別の教育支援計画」の内容について、関係機関と共有できる内容となっていると感じている。	F 運営・対外系 助言・援助機能係	B	A	A	
		④ 交流及び共同学習について保護者や関係機関の80%以上が活動内容に満足している。	I 交流及び共同学習係	— 未実施	A	A	
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	⑤ 地域の幼保小中学校等から年間200件の要請を受けて助言・援助に当たり、担任の取組に改善が見られた割合が80%以上である。	G 運営・対外系 助言・援助機能係	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 困難事例においても、福祉や医療との連携を図り、支援の方向性を関係機関で図ることができた。 60分ケース会議を含む研修会を実施し、先生方の積極的な意見を引き出すことができ、校内の協力体制を構築することができた。
		⑥ 60分ケース会議を含む研修会を年間7回以上実施している。	G 助言・援助機能係	B	A	A	
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑦ 各学部が連携した指導を行うために、学部間の交流学习を年2回以上実施する。	D 学部主事	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 作業学習、校内就業体験の学部間交流学习をさらに進める。 作業学習、校内就業体験について指導、支援の内容や方法等について3学部で情報交換をする。 観点別学習状況の評価について、保護者や学園職員に積極的に説明していく。 引続き、自立活動の目標設定用シートを使用することで目標設定が手順が明確になることなどのメリットを伝え、個別の指導計画を充実に向け、研修していく。 学習指導要領に基づいた目標設定を行い、必要に応じて指導内容を再組織して行うようにしていく。 引き続き、アセスメントから目標設定、指導内容の決定などについて、全職員に周知できるように定期的に研修を重ねていくようにする。
		⑧ 90%以上の保護者が「個別の指導計画」について、保護者の願いや児童生徒の実態に合った目標・内容となっていると感じている。	D 教務2係	B	A	A	
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑨ 80%以上の教員が自立活動の目標設定用シートを使って的確な目標設定ができたと感じている。	E 研修部	A	A	A	
		⑩ 「個別の指導計画」に掲げた目標の達成率が90%以上である。	F 教務2係	B	A	A	
		⑪ 体育・保健体育 のアセスメントを作成し実施をとおして一人一人の学習課題などの実態把握するために、検討の場を3回以上設ける。	D 教務5係 学習指導部 教科等1係	B	A	B	

IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑫ 児童生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、関係者の85%以上が情報共有できていると感じている。	H 保健・給食係	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時や連絡会議、面談等で保護者や学園職員、関係機関と健康に関する情報交換を行い、児童生徒の健康に関する情報を共有し、配慮や対応について共通理解を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活における配慮や対応についての情報の共有ができるように、送迎時や連絡ノート等を活用し、日々の情報共有を充実させる。また、必要に応じて関係機関との連携を図る。
		⑬ 安全点検を全職員で毎月実施し、危険箇所改善率を95%にする。	H 保健・安全部 防災・安全係	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検を毎月実施し、危険箇所等については事務職員の協力を得て早急に改善した。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検・管理責任者の意識向上が図れるよう、安全点検の重要性を朝会などで全職員に伝え、共通理解を図る。また、危険箇所や怪我等の情報については、迅速な報告と全職員への共有を徹底できるようにする。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑭ 心肺蘇生法の講習会やアレルギー対応を含む救急対応訓練等を年4回以上実施し、90%の職員が対応について理解している。	H 防災・安全係 アレルギー対策係	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症のため、参加人数を制限したり、実施回数を増やしたりして、職員救急対応訓練や保健研修を実施し、食物アレルギー等の緊急時での対応について共通理解を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も想定できる場面について訓練や研修を行い理解を深めるとともに、緊急時の対応について共通理解を図る。
		⑮ いじめの未然防止に向けた取組について、全ての教職員、保護者が満足している。	G 生徒指導部	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝の打合せ、学部会等での情報共有や教育相談週間、なかよしアンケート等によりいじめや気になる事案について早期に対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への情報発信が十分ではなく外部評価は低かった。今後は外部への情報発信について考えて行く必要がある。
		⑯ 危機管理マニュアルに基づいて緊急対応訓練を年間3回以上実施している。	G 防災・安全係	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルの見直しをし、マニュアルに基づいて警察や消防等の専門機関と連携して緊急対応訓練年間4回実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、警察や消防等の専門機関と連携を図りながら、緊急対応訓練を実施する。また、危機管理マニュアルの充実に努め、日頃から避難経路の確保や安全管理について発信していく。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑰ キャリア教育に係る授業を80%以上の教員が、年間3回以上行っている。	E 進路指導部 学習指導部	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の全体計画を年度当初に教員に配付し、作業学習を含め全ての学習活動、及び校内・校外就業体験の事前学習や事後学習、高等部1年生対象の進路ガイダンス、卒業した先輩の講演会等がキャリア教育に係る授業であることを教員に説明した。 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため参加生徒の人数に制限を設けたりしたため、授業を行った認識がない教員もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「進路だより」でも、キャリア教育の視点から行う授業や就業体験、職業自立推進事業の授業や研修会の様子を紹介するように努める。学部間の作業学習や就業体験の見学等を積極的に設定する。
		9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑱ 学校からの進路に関する情報について、保護者の90%以上が満足している。	I 進路指導部	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 「進路だより」にデュアル班の実習の様子を紹介したり、写真を掲載したりして、読みやすい紙面になるよう工夫した。webページにも速やかに掲載した。webページの進路部コーナーの改訂を行った。
		⑲ 関係支援機関や実習先、保護者との情報交換を年間3回以上実施している。(高等部)	G 進路指導部	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回実施する個別面談や高3年生が実施する移行支援会議において、校外就業体験の実施場所や卒業後の進路先について話し合えるよう、実施前に各担任や学年主任に必要な情報を提供するように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も面談等実施の前に、学年主任や各担任と情報交換を行うように努め、必要なら進路指導主事が同席するようにする。
		⑳ 関係機関と連携しデュアルシステムを実施し、対象生徒の80%に変容が見られる。(高等部)	F 進路指導部 教科等5係	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> デュアルグループが実習を行っている事業所からは、生徒の作業態度等に高評価をいただき、生徒の就労意欲も向上しているという成果が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> デュアルグループの取組みを「進路だより」やwebページで発信する。デュアルグループで実習する生徒を増やし、校内で身につけた力を試す実践の機会を増やしていくようにする。